

G C O E 講演 (Raivo Stern) 報告書

グローバルCOE講演会を、講師に National Institute of Chemical Physics and Biophysics, Estonia の Raivo Stern 教授を迎え、Bose-Einstein Condensation in some Oxide Dimer Systems- a NMR Study というタイトルで開催した。Raivo Stern 博士は固体化学における NMR 研究の第一人者であり、今回は博士が開発した低温における MAS NMR の多結晶体への応用について詳細を解説された。聴衆は、主に化学教室、物理学教室の大学院生の他、教授、准教授、助教の教員も多数参加した。固体におけるスピングャップ系の磁場中相転移した状態が、新奇な量子状態であるボーズ・アインシュタイン凝縮相であるという最近の研究について、Raivo 博士は単結晶のつくることの難しい物質について詳細を MAS NMR により明らかにされている。その業績は世界的に評価が高く、今回の講演では学生にもわかりやすいように初学的なことから、研究者向けの専門的なことまで統一的に網羅した内容を話された。Raivo 博士の解説が非常に分かりやすく、発表もゆっくりと質問を受け付けながら行ってくださったため、多数の質問、意見が取り交わされ予定時間を大幅に超えて講演会が行われた。講師、聴衆両者にとって今後の研究に有用な情報、インスピレーションが得られる非常に有意義な会であった。

(世話役：理学研究化学教室 吉村一良)

